レポートNo.４

ここで取り上げる三書体は本校書道Ⅰのスクーリングでは学習しません。書道Ⅱで学習しますので、興味を持った人はぜひ選択してください。

草書は篆書・隷書を速書きするために生まれた書体です。しかし極限まで省略されているので、草書体を知っている人でないと読めないという難点があり、現代ではあまり使用されていません。

隷書は篆書の複雑な点画を簡略化し、直線を主体とした実用書体として生まれました。その後登場した楷書に実用書体の地位を譲りほとんど使われることはありませんが、現代でも新聞や書籍の題字、表札・看板などに用いられています。皆さんが使用しているお札にも使われていますので、見てみてください。

篆書は漢字の五つの書体の中で最も古い書体です。紀元前 1300 年頃の甲骨文字から隷書が完成された漢時代頃までの千数百年間に様々に形を変えながら使用されてきました。身近にある書体ではありませんが、印章の文字や、デザイン性に富んでいるので商品パッケージなどに使われていることがあります。（某ラーメンチェーンのロゴは篆書体が元になっています）

| | |
|---|---|
| 問一 | 草書の問題です。教 P59～61 を見てください。<br>②　「草書の特徴」をよく読み、必要な部分をまとめてください。<br>③　草書の古典から出題しています。草書の特徴を理解して自分で考えて答えても良いですが、教科書を隅から隅まで探して見つけてもらっても良いです。 |
| 問二 | 隷書の問題です。教 P62～65 を見てください。 |
| 問三 | 篆書の問題です。<br>教 P66～69 を見てください。 |
| 問四 | 身の回りにある書を探す課題です。<br>身の回りの書とは、私たちが生活する中で、目にしたり触れたりすることがある書のことです。例えば、商品パッケージ（某飲料メーカーのお茶の商品ロゴなど）や包装紙、商店の看板等々です。ここでは書作品（掛け軸や扁額）そのものは含みません。<br>商品パッケージ等は実物をそのまま切って貼ってもらってもよいですが、Google クラスルームに提出箱を用意しますので、写真を撮ってそちらに提出してもらってもかまいません。<br>ただし、ネット上で検索・コピーしたものは受け付けません。<br>＊これは自由課題です。提出しなくても合格になりますが、「書」が自分たちの身近にあるということを体感してもらいたいので、ぜひ、興味を持って楽しんで取り組んで欲しいと思います。このレポートの【主】の評価になります。 |